

解 答

1 (C)	2 (A)	3 (C)	4 (C)	5 (D)	6 (B)
7 (A)	8 (B)	9 (B)	10 (D)	11 (C)	12 (D)
13 (A)	14 (D)	15 (A)	16 (A)	17 (C)	18 (B)
19 (C)	20 (D)				

1. 「その映画はどうでしたか。観るのはおすすめですか」

▶ recommend は動名詞を目的語にするので、(A), (B)は不適。(D)は受動態で文意に合わないので(C)が正解。

□ **recommend doing** 「～することを勧める」

I'd *recommend studying English.*

(英語を勉強しておくといいですよ。)

□ **What is A like?** 「A はどのようなものか」 (= **How is A?**)

▶ この like は前置詞で「～のような」という意味。この表現では、疑問代名詞 what が前置詞 like の目的語になっている。

What is the food in Spain like?

(スペインの料理ってどんなですか。)

2. 「マイケルは、かつては学校でサッカーをプレイしていたが、今はしていない」

▶ but he doesn't (play it) now で「今はプレイしていない」とあるので、前半部分ではプレイしていたと推測できる。文意より過去の習慣を表す助動詞である (A)used to を選ぶ。

■ 助動詞 used to の用法

- (1) 「(今はしていないが)以前はよく～したものだ」 [過去の習慣]

I *used to go to a gym after work, but now I don't.*

(以前は仕事のあとにジムに行ったものだが、今は行かない。)

- (2) 「(今はそうではないが)以前は～だった」 [過去の状態]

There *used to be a post office on this corner.*

(以前、この角に郵便局があった(が今はない。))

形の紛らわしい used to の区別

- ① **used to do** 「以前はよく～したものだ」 [used to=助動詞]

- ② **be[get] used to doing** 「～することに慣れている」 [used=形容詞/to=前置詞]

- ③ **be used to do** 「～するのに使われる」

[used=use の過去分詞:be used(受動態)+to do(目的を表す不定詞)]

① I *used to get up early.* (以前はよく早起きしたものだ)

② I *was used to getting up early.* (早起きするのに慣れていた)

③ In those days a flint *was used to make fire.*

(当時は火打石が火をおこすのに使われていた)

3. 「こんなにたくさん興味深い選択肢があるから、どちらの大学に出願するのか決めるまでにまだもう少し時間がかかる」

▶ a little more time 「もうちょっと多くの時間」。a little は副詞句 (= a bit/a little bit)。(B)は many more + 複数名詞で「数」がずっと多いことを表す。

[例] There are *many more ways of doing this than you might imagine.*

(あなたが想像しているよりこれをする方法はずっと多くある。)

□ **apply to ~** 「～を志願する/(規則などが)～に当てはまる」

Which colleges have you *applied to?*

(あなたはどの大学に出願したのですか?)

cf. **apply for ~** 「～を申し込む/～を求める」

4. 「ボブは小型のボートで2日間漂流し、その後発見された」

- ▶ before he was found に対する主節であり、その時制は過去形(was found)の前(before)なのだから、過去完了進行形である(C)が正解。
5. 「ジョーの雇用契約は終了間近だが、年の終わりに会社はそれを更新するだろう」
- ▶ at the end of the year「年の終わりに/年末に」。at は時の一点を表す。

『時』を表す at/on/in の基本用法

□ **at** : 時の一点(時刻/正午/真夜中など)

at seven「7 時に」, at noon「正午に」, at midnight「真夜中に」

□ **on** : 特定の日(日付/曜日など)

on Sunday「日曜日に」, on my birthday「私の誕生日に」

on May 5(th), 2012「2012 年 5 月 5 日に」

□ **in** : 比較的長い期間(月/季節/年/午前/午後など)

in August「8 月に」, in winter「冬に」, in 2000「2000 年に」

in May, 2012「2012 年の 5 月に」

in the morning「午前に」, in the afternoon「午後に」

6. 「電車が遅れてしまったせいで、学校に遅刻した」
- ▶ 従属接続詞を要する箇所なので、等位接続詞の(C)so, 前置詞句の(D)due to「～のせいで」は正解となりえない。「電車が遅れた」と「私が学校に遅刻した」の関係は〈原因 → 結果〉なので、〈理由〉を表す(B)since(= because/as)が入る。
 - **although** ~ 「～だけれども」 (= **though** ~)
7. 「サッカーが世界で最も人気のあるスポーツであるのはもっともだが、アメリカでは野球が最も人気が高い」
- ▶ may well 全体で助動詞に相当する。他の選択肢にこのような表現はない。
 - **may [might] well do** 「～するのももっともだ」
(=It is natural that~/have good reason to do)
 - ▶ 助動詞 may do「～してもよい」と副詞 well「もっともで」が組み合わさったもの。
He *may well* complain about the treatment.
(彼がその扱いに対して不平を言うのも当然である。)

8. 「最近まで右肩に痛みがあった。それから突然、痛みがなくなったんだ」
- ▶ 前置詞の目的語は名詞が原則だが、形容詞・副詞・前置詞句などを目的語にとる場合もある(多くは慣用表現)。
 - ▶ (D)previously「前もって、以前に」

形容詞や副詞、前置詞句が前置詞の目的語になる場合

□ **形容詞** for free「無料で」, for sure「確かに」, for long「長い間」

□ **副詞** from abroad「海外から」, until recently「最近まで」

□ **前置詞句** from under the desk「机の下から」, since after the war「終戦以来」

9. 「リチャード、君の本を貸してくれてありがとう。レポートを終わらせるのにまさに必要だったんだよ」
- ▶ what I needed to finish my report「レポートを終わらせるために私が必要としたもの」となる(B)が正解(It = your book)。(C)that I needed to finish my report「私がレポートを終わらせる必要があったということ」では文意が通らない。
10. 「太郎がアメリカに行けるようになるには、パスポートを取得しなければならなかった」
- ▶ 時制の一一致で、過去形となる(D)が正解。(B)should は元々は shall の過去形だが、現代英語ではもっぱら現在形として扱う。
11. 「私が思い出させていなければ、トニーは上司との約束を忘れていたところだった」
- ▶ (C)remind「(人)に思い出させる, (人)に念押しする」が正解。remind him の後に, of the appointment with his boss が省略されている。(A)remember にこの用法はない。(B)restate「～を再度言う」
 - **remind A of B** 「A に B を思い出させる」

- ▶ 無生物主語の文になることが多いので、ふつうは「(主語)を見ると[聞くと]AはBを思い出す」と訳す。

- ▶ このofは『関連』のofで「～に関して/～について」の意味を表す。

This photograph always *reminds* me of the trip to Switzerland I took by myself. (この写真を見ると、いつもスイスへの一人旅のことを思い出す。)

12. 「ビーチで3日間悪天候が続いたのち、ジェーンは休日の残りを自宅で過ごすことに決めた」

- ▶ 悪天候の中、ビーチに3日間いた後なので, the rest of her holiday「休日の残り」となる。(A)addition「追加、追加分」, (C)extra「余分の物; 余分の」

- **decide to do** 「～することに決める」 (= **make up one's mind to do**)

- ▶ decideは不定詞だけを目的語にとる動詞として重要である。

- ▶ decide on ~「～に決める」/decide on doing「～することに決める」も重要。

He *decided to postpone* his departure. (彼は出発を延期することに決めた。)

= He *decided on postponing* his departure.

- **the rest of + 不可算名詞(单数扱い)** 「～の残り/残余」

He'll be in a wheelchair for *the rest of* his life.

(彼は残りの人生ずっと車いす生活になるだろう。)

13. 「十代の頃は、子供は親と口論するのが自然である」

- ▶ 形式主語構文の事実上の主語であるto不定詞に相応しい語を選ぶ問題

- ▶ argue with ~「～と口論する」 (=quarrel with ~)。withを伴うのはargueのみである。(B)resist「～に抵抗する」は他動詞。(C)oppose「～に反対する」も他動詞。be opposed to ~の形でも使う。(D)はobject to ~「～に反対する」の形で使う。

- **It is ... (for A) to do** 「(Aが[Aにとって])～することは…だ」

- ▶ Itは形式主語で、後にくる事実上の主語である不定詞句を受けている。to以下が真主語であるからItを「それ」と訳さない。不定詞の意味上の主語を表す必要がある場合は**for A**で表す。

It is necessary for you to go there immediately.

(あなたはすぐにそこへ行く必要がある。)

- **argue with ~** 「～と口論する」 (= **quarrel with ~**)

That day I was too tired to *argue with* her.

(その日、私はあまりに疲れていて彼女と言い争うような気分ではなかった。)

『～に反対している』という意味のイディオム

- **be opposed to ~** 「～に反対している」 (= **be against ~**)

They *were opposed to* my proposal. (彼らは私の提案に反対していた。)

- **object to ~** 「～に反対する」 (= **oppose ~**)

No one *objected to* climbing the mountain.

(その山に登ることに誰も反対しなかった。)

- **be opposite to ~** 「～とは正反対である」

His personality *is opposite to* mine. (彼の性格は僕とは正反対である。)

14. 「日本人口の高齢化がこれほど急速に進んでいるので、一部の企業は高齢者向けの新たなサービスを提供するのに絶好の機会だと気づき始めている。

- ▶ (D)an opportunity to do で「～する機会, ～するチャンス」。文意より(D)が適当である。age「年をとる, 高齢化する」, the elderly「(かなりの)年配の人たち, 老人」
- ▶ (A)instance「例」, (B)utilization「活用」, (C)attention「注意」。

15. 「最終の授業レポートの提出締切日は次の金曜日であることに注意してください。その日を過ぎたら一切受理されなくなります」

- ▶ (A)deadline「(原稿などの)締め切り」, the deadline for A で「Aの締め切り」という形を覚えておくとよい。

- ▶ (B)goal「目標」, (C)end「最後」, (D)conclusion「結論」。

16. 「私があなたらそんなんセーターは買いません。大き過ぎるし、色もあなたのジャケットに合いません」

- A match B で「A が B に合う」(=A go (well) with B)という意味で, (A)が正解。(C)は go with ~「～と調和する(= match)」の形ならば入れることができる。

go with/match/suit/fit の使い分け

(1) **A go with[match] B** 「A(物)が B(別の物)に合う/調和する」

(2) **A suit[become] B** 「A(衣服の色・髪型)が B(人)に合う」

(3) **A fit B** 「A(衣服などのサイズ)が B(人)に合う」

(1) These shoes don't **go with[match]** my suit[^x me].

(この靴は私のスーツに合わない。) ※『人』を目的語にとれない。

(2) That dress **suits** you very well. (そのドレスは君によく似合う。)

(3) These shoes **fit** me. (この靴は私にぴったりだ。)

17. 「過去数年で、ピーターはかなり体重が増えた。だから、今年彼は少なくとも 10 キロは落とそうと決意した」

- (C)resolve を選び resolve to lose at least 10 kilograms「少なくとも 10 キロは落とそうと決意する」とするのが正解。

- (B)order to do 「～しようと(他人に)命令する」では意味が通らない。(A)conclude「～を結論づける」, (B)discuss「～を論じる」はともに to do を目的語にとらない。

□ **resolve to do** 「～しようと決意する」 (= decide to do)

Ken *resolved to go back to school.*

(ケンは学校へ戻ろうと決心した。)

18. 「ちょっといいかな。今日買った新しいソフトのインストール方法がわからないんだ」

- 文意より, (B)figure[make, work] out ~「～を理解する」が正解。

- (A)show up「現れる」, (C)make do「間に合わせる」, (D)set up「～を設置する」

□ **figure out** ~「～を理解する」 (= make out ~/understand/comprehend)

I couldn't *figure out* what she was trying to say.

(私は彼女が言おうとしていることが理解できなかつた。)

► figure out には「～を解決[解答]する」(=solve)の意味もある。

[例] I have to *figure out* this math problem in five minutes.

(私はこの数学の問題を 5 分で解かなければならぬ。)

19. 「フレッドは課題の指示を無視したので、もう一度やらなければならなかつた」

- 課題の指示を(C)disregard「～を無視する」(=ignore)と考える。

- (D)refuse「(提案・要求・招待など)を拒否する」では文意が通らない。(A)deny「～を否定する」, (B)fail (to do)「～しない/～(すること)を怠る」

20. 「私たちはこのプロジェクトの完遂に 10 週間があたえられたが、予定よりも早く終わらせることができた」

- (D)ahead of schedule「予定よりも早く」全体で副詞句となる。

- (A)in advance of ~「～より進んで」, (B)before「～より前に」, (C)in front of ~「～の正面に/～の先に立って」。

cf. **ahead of time** 「定刻より早く」 ⇔ **behind time** 「定刻より遅れて」

群前置詞

2 語以上のまとまりが, 1 つの前置詞と同じ働きをすることがある。これを群前置詞といふ。

□ **according to** ~「～によれば」

□ **but for** ~「～がなければ」

□ **at the risk of** ~「～の危険を冒して」

□ **by means of** ~「～によって」

□ **by way of** ~「～経由で」

□ **for fear of** ~「～を恐れて」

□ **for the sake of** ~「～のために」

□ **in addition to** ~「～に加えて」

□ **because of** ~「～が原因で」

□ **up to** ~「～まで」